

君へ

私のあとを後ろからついてまわる
小さな足音をいつも
気にかけてながら冷たくもした

屋根の上から 君を見おろす
引っ掛かった 雨樋に
羽根を取り 自慢げに放り投げ
もう一度 君を見た

ここからの景色はもう淋しくて色褪せて
潤む 過ぎた日々よ

さっきまでの雨も止んだよ
全てが君を祝福してる

旅立ちの日を 知らせてくれた
頭を下げて やっと見つめる

見違えたよ 面影はそのままだに残しつつ
どうしても 埋まらない この時間

ただずっと 祈ってた
幸せであるように…。
潤む 越えて いくよ

例えばもし別れから始まっているのなら
出逢い、共に過ごす事は至難
だからこそ 抱き合って
しあわせを暖めて
君が決めた人と…。